

堀町遺跡(第6次)発掘調査 現地説明会資料

～松阪市朝田町～



大溝を掘る(4区)



縄文時代の埋設土器



古代の斎串



常滑焼の壺



横板組の井戸



ゆいおけ 結桶の井戸

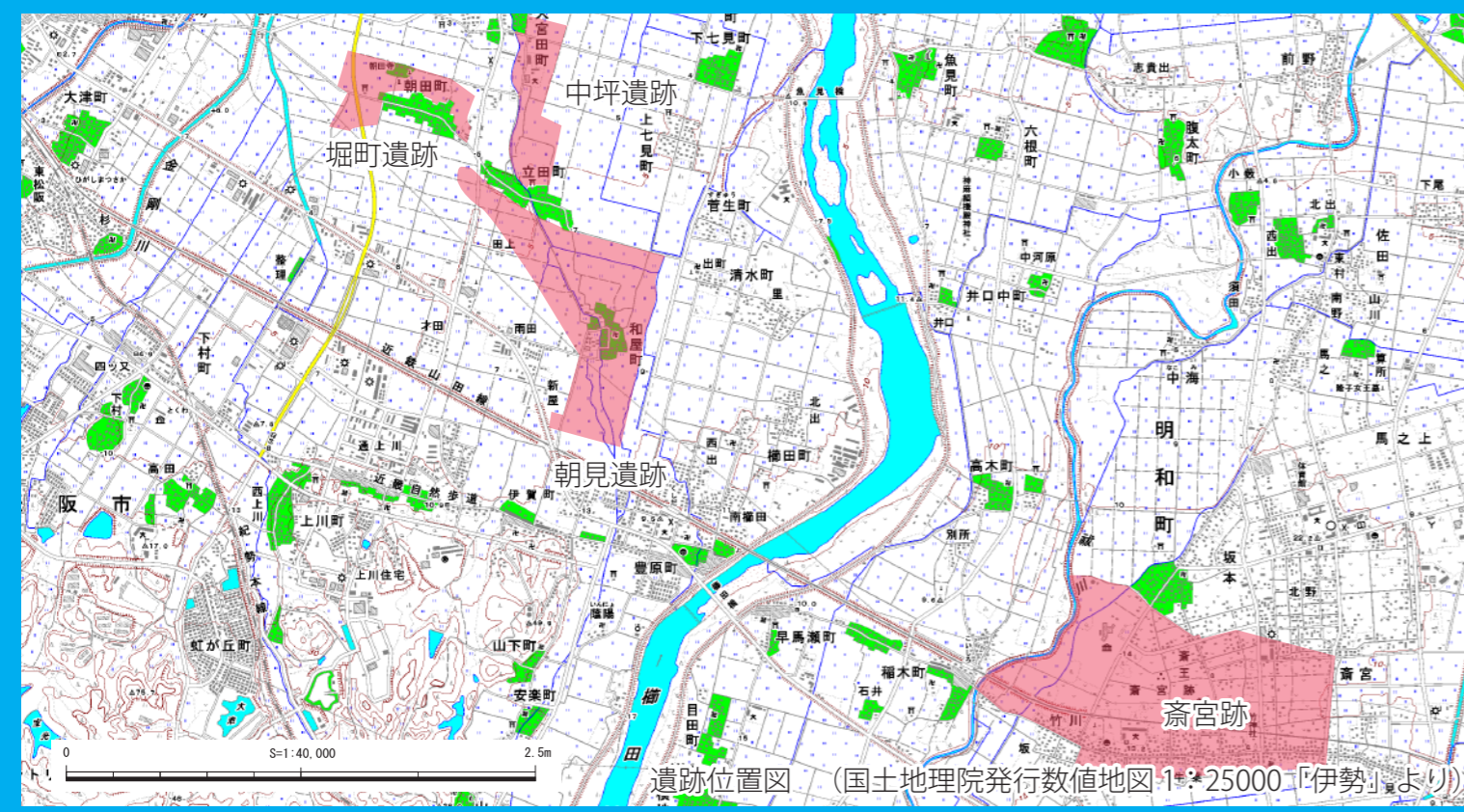


焼物の井戸

発掘調査の風景一目々の作業もさまざま

堀町遺跡は、榎田川と松阪市内の間に広がる平野(標高2～3m)に位置する縄文時代から江戸時代の集落跡です。周辺には、条里地割とよばれる古代以降の耕作地割がよく残っており、遺跡の南には京と齋宮を結ぶ古代の幹線道が通過していたと考えられています。

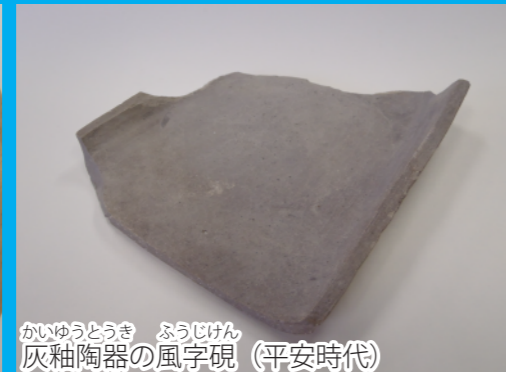
これまでの調査(第1～5次)では平安時代の大量の木製祭祀具やひらがなを墨書した土器などが出土したことや、遺跡付近に「齋宮」という地名があることなどから、齋宮に関わる何らかの施設が存在した可能性が指摘されています。この他にも「盛法寺」と墨書された陶器(平安時代末期)が発見されたことから、周辺に未知の古代寺院が存在した可能性が出てきました。



遺跡位置図 (国土地理院発行数値地図1:25000「伊勢」より)



「少■寺」と墨書された土器(平安時代)



かいはうとうき ふうじけん 灰土陶器の風字硯(平安時代)



とぎん 鍍金された仏具や陶器類(江戸時代)

今回の調査(第6次)では、縄文時代から江戸時代の集落跡を確認できました。なかでも朝田町集落の東部での縄文時代中期末から後期(約4,400年前)にかけての埋設土器は、沖積平野での初めての確認例です。埋設土器の用途は、乳幼児の墓と考えられています。また、朝田町集落の東部で縄文時代の集落跡が広がっていたと考えられます。

朝田町北東部の調査では、飛鳥から奈良時代にかけての掘立柱建物1棟が見つかりました。おそらく北東部を中心に集落が広がっていると考えられます。

また、朝田町集落の北側の自然流路から数多くの土器や木製品などが出土しています。とりわけ「少■寺」と墨書された平安時代の土師器杯が出土したことは、未知の古代寺院が存在していたことを示し、古代の寺院が存在するという事は、この地域に寺院を造営するような経済基盤があったことを示しています。

そして、朝田町集落の北側では鎌倉から江戸時代の溝や井戸50基以上が見つかりました。堀町遺跡のこれまでの調査(第1次から第5次)で見つかった井戸をあわせると合計100基以上になります。しかし、これほど多くの井戸が掘られた理由は分かりません。溝は、土地を方形に区画するように掘られており、当時の土地の利用のあり方を示しています。さらに、江戸時代の遺構(生活の痕跡)は、現在の土地や屋敷に沿った所で見つかることから、集落の区割りは江戸時代から現代にいたるまで変わっていないと思われます。

最後に、今回の調査の出土品は非常に優品が多く、この地域(堀町遺跡・中坪遺跡・朝見遺跡)がとても重要な地であったことを示しています。今後は、引き続き行われる発掘調査によってこの地域の歴史を少しずつ解明していきたいと思ひます。

調査遺跡名: 堀町遺跡(第6次)
所在地: 三重県松阪市朝田町
調査面積: 約7,100㎡

原因事業名: 高度水利機能確保基盤整備事業(朝見上地区)
調査実施機関: 三重県埋蔵文化財センター
調査期間: 平成25年5月10日～平成25年12月12日(予定)

堀町遺跡（第6次）調査区位置図

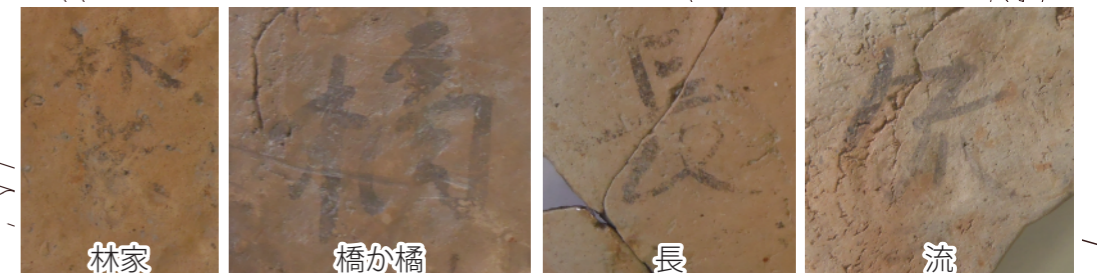


朝田寺

2.9

第5次発掘調査区

3.2



平安時代の墨書土器が数多く出土



①焼物の井戸枠



②板を縦に組んだ井戸枠



③結桶の井戸枠



④完全な状態の壺が出土



⑤溝跡からたくさんの土器が出土



⑥鍍金をした仏具を発見

鎌倉時代（12世紀末～13世紀初頭）の井戸から「僧器」「僧十」と墨書された陶器（山茶椀）が出土する



縄文土器が多く分布する範囲

⑦縄文時代の埋設土器（約4400年前）

主な遺構の時代

- 縄文
- 飛鳥
- 奈良・平安
- 鎌倉・室町
- 江戸
- 不明
- 自然流路

[飛鳥～江戸]



100m

2.9

3.3

朝

町

4.6

10区

7区

6区

4区

5区

6区

8区

9区

3.1

4区

3

2.9